

加治木郷土館の歴史

加治木郷土館は、戦国武将島津義弘が築き、江戸時代には加治木島津家の屋形であった場所にあります。昭和12年(1937)10月1日に加治木町史談会創立十周年記念行事の一環で、加治木の銀行家・原田耕夫氏の寄付を受け開館しました。

開館当時の建物は、旧加治木図書館(国登録有形文化財)で、当初は、加治木島津家や加治木の旧家から出品された資料が展示され、郷土史家・野田昇平氏をはじめ加治木町史談会会員の援助・協力で館内が整備されました。

太平洋戦争末期に加治木は空襲を受け、多くの建物が焼失しましたが、加治木郷土館は被害を免れ、建物と展示品は無事でした。戦後の昭和47年に新川近義氏の寄付により現在の建物が建てられ、移転しています。

郷土史家・野田昇平

野田昇平は、明治10年(1877)に、加治木町大字反土柳田に生まれました。絵画の才能に恵まれ、東京美術学校(現・東京芸術大学)に進学し、卒業後は、北京大学や東京の実践女学校(現・実践女子大学)に勤務しました。

昭和7年(1932)頃、鹿児島に帰郷後は郷土史研究に没頭し、日木山洞穴や御里窯跡、天福寺磨崖仏の調査などにも関わり、多くの著書を残して郷土史研究の大きな礎となりました。また、この頃には美術の専門性を生かした絵巻物『島津義弘一代記』の制作に取り掛かり、約10年をかけて完成させています。



昭和12年(1937)に開館した加治木郷土館の準備・運営については中心的役割を果たし、加治木の旧家に残る文化財を収集しました。野田昇平は、まさに加治木郷土館の生みの親といえる人物です。昭和20年(1945)、68歳で亡くなりました。



●交通案内

- J R 日豊本線加治木駅から徒歩10分
- バ ス 加治木本町バス停から徒歩10分
- 自動車 鹿児島市街地から45分
鹿児島空港から20分
- 九州自動車道 加治木ICから5分

●施設案内

- 開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料



加治木郷土館

始良市加治木郷土館

鹿児島県始良市加治木町仮屋町250番地

TEL・FAX 0995-62-0130

始良市

加治木郷土館



1階

加治木にゆかりの深い戦国武将島津義弘と幕末から明治時代に活躍した西郷隆盛や光蘭院貞姫の資料とともに、江戸時代の薩摩焼などを展示しています。

名山楼詩集版木【市指定有形文化財】

名山楼詩集は、江戸時代の中頃に加治木島津家6代当主久徴が作り、伊藤世肅が校訂・刊行した漢詩集です。この版木は薩摩の印刷技術の高さを表す貴重な資料です。



光蘭院貞姫の夜具

光蘭院貞姫は、加治木島津家出身で幕末に島津本家の養子として京都の公家・近衛家に嫁いだ女性です。夜具は現在の掛け布団に当たるもので、この夜具は染織や刺繍で飾られた豪華なものです。



西郷隆盛書「敬天愛人」【市指定有形文化財】

西郷隆盛が新たに設立された私学校加治木分校に贈った書です。西郷の「敬天愛人」の縦書きの書は大変めずらしい資料です。



加治木銭

中国・明時代の貨幣「洪武通宝」の裏側に「加」、「治」、「木」の文字が鑄出されていることから加治木銭と呼ばれています。古文書



かぼちゃ型鉄瓶【市指定有形文化財】

幕末から明治にかけての活躍した鋳物師川畑道仁の作品です。道仁はかぼちゃ型鉄瓶をはじめ、梅花型や富士型など高度な技術で細工をした鉄瓶を製作しています。



2階

明治から昭和に使われていた農具や工具などの民俗資料や、さまざまな生活用品、仏像、戦争関連資料、遺跡の出土品などを展示しています。

松原添遺跡の岩偶

縄文時代後期後半（約4000～3500年前）の岩偶で、軽石を加工して女性の体を表したと考えられます。縄文人が子孫の繁栄や豊穡を祈っていたことをうかがうことができます。



黒釉剥地牡丹文梅瓶【市指定有形文化財】

加治木氏の一族である木田氏の城館跡と考えられる市頭C遺跡で出土しました。この梅瓶は国内初の出土で、同型の資料は鎌倉時代の元亨3年（1323）に朝鮮半島沖で沈没した貿易船（新安沈没船）の積み荷の中にある貴重品です。



この当時の加治木氏・木田氏の権力や経済力を表す資料といえます。

岩屋寺の勢至菩薩像

岩屋寺は平安時代に再興されたと伝えられ、中世から近世まで加治木氏や島津氏の庇護を受け栄えた寺院です。しかし明治初年の廃仏毀釈で寺は破壊され多くの石仏が失われました。この勢至菩薩は体の部分が失われ頭部のみの石像ですが、戦国時代の永正6年（1509）の年号が入った貴重な資料です。



仏像

郷土館には江戸時代に作られたと考えられる仏像が数体収蔵されています。右の写真は「木造不動明王立像」です。

不動明王は、大日如来が仏法に従わない人々を怒りの姿で脅し、教えに導き入れる姿といわれています。



加治木と薩摩焼

豊臣秀吉の朝鮮出兵に出陣した島津義弘は、帰国の際に朝鮮人陶工を連れ帰りました。彼らが藩内各地で焼き物を製作したのが「薩摩焼」の始まりです。

加治木では、義弘の指示で朝鮮人陶工・金海が茶器を焼いた御里窯、朝鮮人陶工の子孫である山元碗右衛門が開いた山元窯やその伝統を引き継いだ龍門司焼古窯、江戸時代に磁器生産に挑戦した弥勒窯や日木山皿山窯といった薩摩焼窯跡が発掘調査されてきました。これらの窯跡から出土した大量の陶片には、陶工たちの優れた製作技術が刻まれています。



島津義弘画像
〔尚古集成館蔵〕

また、当館には旧家に伝わった薩摩焼の優品や庶民が日常容器として使った焼き物も展示していて、薩摩焼の歴史・伝統を広く学ぶことができます。



御里窯跡出土茶入



山元窯跡出土土



弥勒窯跡出土土



龍門司焼三彩からから



日木山皿山窯つがたかひん筒形花瓶